

第13回 あらかわ俳壇

投句数	311句
投句者数	68名
兼題	蝌蚪、薄暑、螢、当季雑詠
選者	佐々木忠利氏（荒川区俳句連盟会長）
期間	平成31年4月1日（月曜）から令和元年6月30日（日曜）

特選	あらがひて闇の歪みへ落ち螢	高安政江さん
選評	美しい詩情を誘う螢は、初夏の風物詩である。夜空へ幻想的な光芒を曳いて飛び交う光景は、光と闇の争いでもあろう。何と言っても圧巻は「闇の歪み」。その中へ落ちては消え行く螢。見事な風趣に富んだ一句である。	
入選	御朱印帳墨痕句ふ薄暑かな	大越源一さん
	薫風を入れて都電の揺れごち	松本光章さん
	蟻塚の復旧早し雨上がり	須賀葉子さん
	糸蜻蛉影の消えたる高さかな	木幡忠文さん
	螢火ややがて一つの星となり	鈴木しおりさん

第14回 あらかわ俳壇

投句数	394句
投句者数	102名
兼題	サングラス、流星、蓑虫、当季雑詠
選者	対馬康子氏（現代俳句協会副会長）
期間	令和元年7月1日（月曜）から9月30日（月曜）

特選	稲妻や午前零時の古い靴	竹野美恵子さん
選評	靴はその人が生きている時間とともにある。「古い靴」ということに人生の長さが集約されている。愛用の靴はなかなか捨てられない。日付の変わる午前零時、闇に稲妻が光り、思い出の中に古い靴が歩きだしそうである。	
入選	浴衣がけ異国娘の人力車	飯沼節子さん
	花野行く同じ淋しさ持つひと	鈴木真理子さん
	流星や兜太の句碑の白きこと	渡辺長二さん
	愛愛愛！！届けあなたに流星よ	金子大輝さん
	サングラス外すといふもある合図	戸矢一斗さん

第15回 あらかわ俳壇

投句数	419句
投句者数	99名
兼題	木の実、山茶花、年の暮、当季雑詠
選者	佐々木忠利氏（荒川区俳句連盟会長）
期間	令和元年10月1日（火曜）から12月31日（火曜）

特選	云ふなれば自由は孤独野分吹く	鈴木真理子さん
選評	例えて言うならば自由とは気楽のようだが、孤独と責任が伴うもの。自分の人生において全責任をとる事を常に自覚しなければならない。野の草を吹き分けて通る秋の強い風や台風の様なものを受け入れる覚悟の一端と思える深みの中にも印象深い一句。	
入選	年の暮足場解かれてビル生る	北谷ふみ子さん
	生業の立たぬ商い年の暮	小池恵美子さん
	包丁の先に南瓜の音跳ねる	木下君穂さん
	陣取りのチョコクの丸や木の実落つ	田中礼子さん

※同一の先行句があったため、1句の入選を取り消しました。

第16回 あらかわ俳壇

投句数	296句
投句者数	64名
兼題	毛布、雪解、木の芽、当季雑詠
選者	対馬康子氏（現代俳句協会副会長）
期間	令和2年1月1日（水曜）から3月31日（火曜）

特選	該当なし ※同一の先行句があったため、入選を取り消しました。	—
入選	初蝶のいつしか水の光かな	渡辺長二さん
	くすぐると喜ぶこども雪解風	石井浩美さん
	梅園の近道を抜け母の家	成田乃里子さん
	空白の多きノートや冬の朝	海野千絵さん
	子の描くもじゃもじゃの空木の芽吹く	竹野美恵子さん

あらかわ俳壇 小中学生スペシャル

投句数	20句
投句者数	13名
兼題	桜、蝶、しゃぼん玉、当季雑詠
選者	対馬康子氏（現代俳句協会副会長）
期間	令和2年3月13日（金曜）から4月6日（月曜）

特選	満開の桜を見たり一輪車	第二峡田小学校3年・中澤結香さん
選評	一輪車を操りながら、両腕を開いて満開の桜を受け止めている。その映像が目に浮かぶ。「満開の桜の下の一輪車」と言わずに「見たり」と強調したところに青春性を感じさせる。表現の省略が効いた素晴らしい作品。	
入選	サングラスにあっけいす出かける日	瑞光小学校3年・三神橙子さん
	ダンスするさくら花びら風達と	瑞光小学校5年・光山あいかさん
	雪解をじっくり見るとあきてくる	瑞光小学校6年・カズテヌさん
	ビュンビュンと風ふけ風ふけ桜舞う	第二峡田小学校3年・中澤結香さん
	蝶びたり頭に止まれティアラかな	第二峡田小学校3年・中澤結香さん